

公益財団法人アジア保健研修所
2023年度事業報告
(第12期 2023年4月1日～2024年3月31日)

はじめに	1
A. 研修事業	
1. 国際研修	1
2. 研修生へのフォローアップ事業	2
1) 英文ニュースレターの発行 他	2
2) リユニオンセミナー – オンラインフリートークの会	2
3. 地域保健推進のための協働事業	2
1) 国際ワークショップ – オンライン事例研究会	2
2) 研修生によるコミュニティ活動の支援	2
①北インド 健康格差をなくすための若手リーダーを中心としたコミュニティづくり事業	3
②パキスタン 地方NGO若手スタッフ育成 参加型リーダーシップ研修	3
③参加型評価手法の実践のための支援	3
3) アジア各国間の学び合いの促進	3
B. 国内活動	
1. アジア理解のためのプログラム	3
1) AHI 初めて始めて講座	3
2) AHI 講座 地域活動実践者対象「学ぶ⇔変わるプログラム」	4
3) オープンハウス「未来レター」	4
4) スタディツアー（オンライン）	4
2. 情報および体験機会の提供	5
1) 情報誌「アジアの健康」の発行	5
2) インターネットを活用した広報活動	5
3) ボランティア・インターン受け入れ	5
3. 他団体との協力	5
1) 他団体への講師派遣・来館の受け入れ・イベント出展	5
2) 外部団体・ネットワークへの加盟	5
3) 他団体との協力による政策提言活動	5
C. 法人運営	
1. 理事会・評議員会	6
2. 賛助会員募集・募金活動	6

はじめに 中期全体方針 1 年目として

当法人は「誰もが尊重され健康に暮らせる社会をめざして行動する人を育む」ことをミッションとし活動する団体である。2023 年度～2025 年度の中期全体方針では、上記ミッションの方途として、下記 3 つの重点方針を定めた。

- 1、学び合うコミュニティをつくる
- 2、伝える・共有し一緒に考える
- 3、組織基盤を強化する

2023 年度はこれらの方針を具体的に進める新しい試みと検証を行った。同時に、この方針を進めるためには、協働する人びとの存在が不可欠であり、そのリソースの発掘と関係(再)構築に取り組んだ 1 年であった。

「学び合うコミュニティ」の起点=キーパーソンの発掘

中期全体方針では、国際研修を、「学び合うコミュニティ」の起点となる事業と位置付けている。研修生たちが AHI で参加型アプローチを学びアジア各地の現場で継続的に実践すること、そして、元研修生同士およびともに地域で活動する同僚や住民、多様な関係者と「学び合うコミュニティ」をつくり広げていくことを目指している。

2023 年度は、元研修生との情報共有の方策と内容の見直し、および元研修生が抱える課題に基づく勉強会や協働事業等を実施した。この働きかけを通し、学び合いを継続することに意欲的な元研修生を発掘していった。今後は、この元研修生たちを中心に「学び合いのコミュニティ」を広げていく。

また、日本国内の地域活動実践者を対象にした働きかけを行い、その人たちとの関係づくり、および学び合いへのニーズを把握することに努めた。今後は、このつながりをもとに、日本の人びとと研修生とが学び合う機会を作りだしていく。そこから、日本を含めたアジア域内で地域活動の経験

を共有し、異なる視点や立場から学び合うコミュニティの形成へとつなげていきたいと考える。

参加型の運営を足元から

「学び合うコミュニティ」をめざす当法人にとって、組織運営においてもその実践に取り組むことは不可欠である。サポーター(会員・ボランティア・国内プログラム参加者)に活動や課題を伝え、対話や体験を通して、この道のりへの共感や参画を促していかなばならない。

2023 年度は、サポーターとの関係を結び直すことを目指して、様々な広報媒体や情報共有ツールを活性化し、「学び合うコミュニティ」とその取り組みをサポーター発信・サポーター目線で伝えること、そしてともに考え活動する機会をもつことに努めた。また、次の社会を担う 20 代や、当法人の活動や運営を引き継ぐ 30～40 代を対象に、学び合いを体験する企画、関わりやすい形態のボランティア活動等も実施した。

このような活動を継続し、サポーターとの関係をさらに強め、深めることが課題である。

A. 研修事業

1. 国際研修

「誰もが尊重され健康に暮らせる公正な社会」を実現するためには、社会包摂に基づく地域での意思決定への住民の参画と、住民自身による活動が不可欠である。さらには、それらが持続的に行われるには、活動を担う次世代の育成が重要である。

2023 年度は、引き続き「変化をつくり出す次世代育成」をテーマとし、2021 年度・2022 年度にオンラインで行った研修の参加者を対象に、対面での研修を開催した。

研修生たちが、研修後も活動現場で参加型のひ

とづくり（「学び合うコミュニティ」づくり）を実践する後押しとなること、そのためにより参加型とその効果を体験し、理解を深めることをねらい、研修生たち自らが企画・運営するという研修の特徴をより濃くする試みを行った。その一つとして、研修開始前からの研修生たちがオンライン会合をもち、議論し合って各自の課題と学びのニーズを明確にするプロセスを持った。また、その議論にもとづいて、研修生の活動パートナー2名を新たな研修生として迎えた。その選考にあたっては、研修生たち全員が議論に加わり、研修企画への参加を高め、オーナーシップを醸成した。

*期間 2023年8月28日～9月24日（日曜日を除く28日間）

*参加者 インド、スリランカ、パキスタン、バングラデシュの6団体から計9名（内訳：2021年度・2022年度オンライン研修参加者より7名、その同僚2名）

2. 研修生へのフォローアップ事業

1) 英文ニュースレターの発行 他

ニュースレター、ウェブサイト、SNSを活用し、元研修生たちの「学び合うコミュニティ」継続と活性化に努めた。

*元研修生の情報交換サイト

「学び合うコミュニティ」に関わる元研修生の活動の進捗について、記事執筆を元研修生に依頼し、ホームページの専用サイトに随時公開した。

*元研修生 Facebook グループ

研修の学びの実践や、研修後の新たな課題に関する投稿を元研修生に促し、研修生間でその情報が共有されるよう努めた。さらに元研修生が関わりやすいプログラムを Facebook 上で企画し参加を募ったり、関心の高い情報を頻度高く発信したりするなどし、関係の継続強化を図った。

*「学び合うコミュニティ」ニュース

「学び合うコミュニティ」に対する元研修生の理

解を促すため、関連する活動の報告をまとめた年次報告を電子発行した（2024年1月）。

2) リユニオンセミナー オンラインフリートークの会

元研修生間に、研修参加年の違いを超え、主体的に学び合う関係をつくることをねらいとする。2023年度は、国際研修前後に設定し、元研修生たちと2023年度の研修生が意見を交わす場を設けた。これにより、元研修生たちが国際研修に関与する機会をつくり、国際研修を起点とした「学び合いのコミュニティ」の一員であるという意識を生み出すことに努めた。

日程：

2023年7月1日 参加者17名「元研修生から国際研修参加時の体験をきく」

2023年11月22日 参加者19名「2023年の研修生から国際研修での経験と得たものをきく」

3. 地域保健推進のための協働事業

1) 国際ワークショップ・オンライン事例研究会

元研修生およびその所属団体との協働で、各国の元研修生（NGOスタッフ）およびその活動パートナーである住民組織のメンバーや行政職員等が集まって行う交流型の研修である。2022年度よりオンラインで実施している。2023年度は下記の会合を行った。

*次世代育成をテーマに

日程：2023年4月19日 参加者8名

前年度にタイの元研修生3名が中心となり行ったものの第2弾となる。スリランカ・タイ・バングラデシュ・フィリピン・ミャンマー・モンゴルの元研修生が集まり、周縁化されたコミュニティの若者を対象とした各自の取り組み、課題とそれらへの対応を共有した。

2) 研修生によるコミュニティ活動の支援

①北インド 健康格差をなくすための若手リーダーを中心としたコミュニティづくり事業

協働団体：プラヤス

2022 年度に行った元研修生間のオンライン事例研究会（上述）での議論がきっかけとなり、元研修生とその所属団体が発案・企画した事業である。当法人は、その実施の支援を 2023 年度に開始した。公的保健医療サービスの質やアクセスの格差が大きい北インドの若手 NGO スタッフを対象に参加型研修を行い、地域における学びの実践を支援する。これを通し、住民自身が、健康格差の是正にむけて政策提言力を向上させていくことを狙う。2023 年度は下記のように研修およびフォローアップを行った。

この事業から広がる元研修生同士の「学び合いのコミュニティ」を将来的に生み出すべく、準備・実施にあたり、他の元研修生との情報共有の場を様々に設けた。

*「健康の公正性」研修コース実施

2023 年 10 月 4 日～10 月 14 日（10 日間）

参加者 14 名

*研修後のフォローアップ

2024 年 3 月に参加者による実践報告会を開催。

その後、随時相談・支援を行った（2024 年度も継続中）。

②パキスタン 地方 NGO 若手スタッフ育成 参加型リーダーシップ研修

協働団体：エイズ啓発協会（AAS）

2013 年度の国際研修の参加者のイニシアティブにより 2014 年以降、年 1 回実施してきた。当法人との協働終了を見据え、その後の自立的・持続的な運営にむけ、修了生グループが戦略を立てることを支援した。戦略作成にあたっては、類似する研修の開催経験を持つ、フィリピンの元研修生からのアドバイスを得られるよう橋渡しを行い、元研修生同士が国を超えて協力する機会を設けた。

戦略作成後、最後の研修開催をもって当法人との協働事業としては終了の予定であったが、開催

の状況が整わず未開催となった。来年度の開催を持って終了の予定である。

③参加型評価手法の実践のための支援

2021 年度・2022 年度に、元研修生とその所属団体（1 期生）を対象に、MSC（モスト・シグニフィカント・チェンジ 最も重要な変化）と呼ばれる参加型評価手法について学び、さらにその実践から学び合う連続研修をオンラインで開催した。さらに 1 期生を講師として、関心ある元研修生とその所属団体（2 期生）が MSC を学ぶ研修を開催した。このような広がりを受け 2023 年度は、2 期生のうち、実践を試みているタイ 1 団体、バングラデシュ 2 団体、スリランカ 1 団体について、メールやオンライン会議等で、適宜その進行状況を把握し、助言等を行った。

1 期生と 2 期生との間に学び合う関係をつくることをねらったが、各団体の進行が遅く顔を合わせた会合を実施することはできなかった。MSC に代わる、より迅速に活用できる実践的な手法を題材に元研修生たちが学び合う場を提供することが課題であることがわかった。

3) アジア各国間の学び合いの促進

中期全体方針に基づき、今年度は、上記の全事業において、国や参加年を超え、元研修生同士が「学び合うコミュニティ」を生み出すことを意識し、新たな試みを行った。詳細は各事業項目を参照のこと。

B. 国内活動

1. アジア理解のためのプログラム

1) AHI 初めて始めて講座

新規の人を対象に、アジアの人びとの健康と社会課題の関係や、当法人の理念や活動を紹介する講座を毎月1回程度開催した（参加者計40名）。ワークショップを交えて行い、参加者が参加型を体験する場となることに注力した。

その後の継続的な関わり(ボランティア活動、プログラムへの参加、財政支援)につながるよう、参加者の関心やニーズの把握に努め、それに応じた情報を提供した。

2) AHI 講座 地域活動実践者対象「学ぶ⇔変わるプログラム」

アジア中・低所得国の地域課題と日本の地域課題は共通のものとなりつつあるという社会認識に基づき、元研修生たちと日本の地域課題に取り組む人びとの学び合いの場づくりに向け、2023年度は下記の事業を行った。

①「健康と社会」を考える読書会「ちょい読みサロン」

2022年度に出版した『学ぶことは変わること-自分と地域の力を引き出すアイデアブック』(原著 “Helping Health Workers Learn” David Werner 他著 1982年)のオンライン読書会を下記の日程で計7回行った。

本書は、健康を社会の構造的な問題としてとらえ、その解決に向けた学習とそれを推進する人の役割について述べている。各回5~10名の保健・福祉、教育、まちづくりなど幅広い領域で社会活動に携わる人たちが参加した。

前半3回は読む範囲を決め、自由に話し合う形式で行った。その後、参加者の希望により継続を決め、参加者の発題による内容となった。より参加者の経験と関心に基づくディスカッションが展開された。

日程 2023年6月16日、6月30日、7月14日、10月6日、11月17日、12月15日、2024年3月8日

②地域共生ワークショップ

日進市および周辺地域の地域活動に関わる人びとの関係開拓を目的に、日本障害者リハビリテーション協会との共催で、同協会が開発した「Let's協力カードゲーム」を用いたワークショップを下記のように開催した。参加者は、地域で課題を抱えて暮らすさまざまな人びとの共生と連携について議論し、各自の活動を振り返った。同時に、参加者の研修機会に対するニーズの把握を行い、アジア各地の元研修生との学び合いの可能性や期待を探った。

*「Let's協力カードゲーム」ファシリテーター研修

2023年11月23日 参加者9名 会場 AHI

*「地域の課題、誰と一緒にとりくむ？」ワークショップ

2023年12月16日 参加者16名 会場 名古屋YWCA

3) オープンハウス「未来レター」

従来、AHIとアジア諸国について関心を持つきっかけとなるよう気軽に参加できる催し物として実施してきた。2023年度は、ユース(10~20代)にアプローチするものとして、AHIがめざす「誰もが尊重され健康に暮らせる社会」について、国際研修に参加している研修生との対話を通して考える内容とした。中高生や大学生が多く参加した。

日本の参加者および研修生双方にとって、それぞれの課題を直接聴き、自らの生活や活動について視野を広げる機会となった。

日程 2023年9月24日 参加者27名 於AHI

4) スタディツアー(オンライン)

諸状況が整わず、元研修生の活動地に赴く生活体験型のツアーは行わなかった。しかし、名古屋NGOセンターが主催するNGOスタッフ育成研修の受け入れ時に、2023年度の国際研修に参加したスリランカの元研修生と、Zoomでつなぐオンライン型の交流プログラムを行った。

元研修生から、スリランカの社会状況と地域の

課題、その課題に地域の若者たちがどのようにと
りくんでいるのか、また国際研修の学びをどのよ
うに生かしているのかについて聴き、自らの社会
での役割について考える機会を持った。

日程 2023年11月25日 参加者13名 於
AHI

2. 情報および体験機会の提供

1) 情報誌『アジアの健康』の発行

アジア各地の元研修生の活動地域の状況や彼ら
の活動を伝える情報誌を下記のように発行した。
サポーターの視点から活動を伝えることに力を入
れ、会報編集員がより主体的に企画・取材・執筆を
行う形とした。

夏号(2023年8月発行)、冬号(2024年2月発
行)、各A4サイズ8頁 3,100部

2) インターネットを活用した広報活動

SNSを活用し、関係者への情報発信を積極的に
行い、その人たちから新規の人たちへ当法人の情
報が広がるように努めた。9月にはメールマガジ
ンを刷新し、より関心を引くレイアウトや内容に
刷新し、月一回、サポーターやボランティア、プロ
グラム参加者等(約4000名)に送付した。

3) ボランティア・インターン受け入れ

学生や社会人を対象に AHI の理念や活動を紹
介し、またボランティア活動を通して、NGO 活動
を体験する機会を提供した。国際研修開催時には、
大学院生のインターン1名を受け入れた。また
2023年10月27日に3名の高校生をキャリア教
育プログラムとして、2023年12月6日には中学
生1名を職業体験として受け入れた。

3. 他団体との協力

1) 他団体への講師派遣・来館の受け入れ・イベ

ント出展

学校や諸団体からの依頼に応じ、職員や関係者
を講師として派遣、来館を受け入れた。当法人の
活動を紹介し、あわせて元研修生の活動地域の課
題や取り組みについて情報を提供した。学校関係
(小中高、大学)18件、諸団体6件。

日進市との協働事業である小学校で行う国際理
解講座「みんなでめざすみんなの学校 小学校で
のSDGs講座」は、計4校で実施した。身近なこ
とから「誰も取り残さない社会」を考える内容と
なるよう、大学生ボランティアとともにワークシ
ョップの練り直しを行った。

また、日進・名古屋近辺の団体が主催するイベ
ントへの出展を行い、当法人の活動紹介を行い、
賛助会員やボランティアを募った。当法人の賛助
会員によるボランティアグループ「アジアの子」
が結成され、日進市市民祭り(11月)で当法人の
活動紹介ブースを出展した。

2) 外部団体・ネットワークへの加盟

下記の諸団体に加わり、関連分野の活動を進めた。
< >内は各団体における現役職名。

- ・名古屋 NGO センター<理事>
- ・名古屋キリスト教協議会<役員>
- ・障害分野 NGO 連絡会 <幹事・研修研究委員>
- ・カンボジア市民フォーラム<世話人>
- ・「公正な医療アクセスをすべての人に！」連絡会
- ・開発教育協会

3) 他団体との協力による政策提言活動

名古屋 NGO センター等の加盟団体の一員とし
て、関係機関への政策提言活動を行った。また国
内外の関係団体による、ミャンマーおよびガザの
人びとの命・健康と人権の擁護を訴える声明や要
請文に賛同し、市民社会の立場から声を発する動
きに連なった。

C. 法人運営

1. 理事会・評議員会

2023 年度末現在、理事 9 名、監事 2 名、評議員 10 名。開催日と主な議題は下記の通り。なお、2023 年度より、理事会開催前に理事会準備会合を開催し、理事長、業務執行理事他 1~2 名の理事により議題の準備を行った。

* 理事会

2023 年 6 月 9 日

－2022 年度事業報告案・決算案の件

2023 年 7 月 4 日

－業務執行理事の選定の件、今後の理事会運営についての自由協議

2023 年 9 月 7 日

－事務局規定案、業務決裁規則案の件 他

2023 年 12 月 14 日

－アジア人材育成資金取扱規程案、退職金規定案、会報等への会費納入者寄付者芳名掲載案の件 他

2024 年 3 月 5 日

－2024 年度事業計画案・予算案、次回評議員会開催日程の件 他

* 評議員会

2023 年 6 月 29 日

－2022 年度事業報告案・決算案の件、理事・評議員選任の件

2024 年 3 月 21 日

－2024 年度事業計画案・予算案の件

2. 賛助会員募集・募金活動

賛助会員現勢（2024 年 3 月 31 日現在）

●賛助会員総数 2024 名 <前年度比 130 名減>

内ひとつかみサポーター（月額・自動引落）

188 名 <前年度比 3 名減>

●寄付者総数 525 名 <前年度比 8 名減>

1) 支援者・資金獲得のための働きかけ

①古本・切手等での寄付「ギフトリレー」

古本買取・販売の会社の社会貢献制度を利用した寄付、切手や葉書での寄付を随時呼びかけた。

古本による寄付 計 10,036 円（8 件）

切手・葉書による寄付 計 364,938 円（140 件）

②「想いを伝える遺言書講座」

遺贈への社会的認知の高まりを受け、近隣の司法書士の協力を得て実施していたものだが、2023 年度は開催を休止し、アプローチする対象について再検討を行った。2024 年度に再開予定。

2) 会費・寄付金実績

* 会費収入実績 計 11,382,240 円

前年度比 496,050 円減

a) 新規会費 計 85,475 円

内訳： 年会費 16 名 64,475 円

ひとつかみサポーター(月額引落)

3 名 21,000 円

b) 継続会費 計 11,296,765 円

内訳： 年会費 8,386,765 円

ひとつかみサポーター(月額引落)

2,910,000 円

* 寄付金収入実績 計 21,235,663 円

前年度比 16,712,313 円減

1. 一般寄付（使途の定めのないもの）

14,474,389 円（うち 12 月 1 日から翌年 2 月 29 日実施のクリスマス・お正月募金は、12,556,874 円）

2. 特定寄付金（使途を定めた募金活動による）

0 円

3. 特別寄付金（使途の定めのある寄付金）

6,761,274 円